

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい12		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6番12号		
自己評価作成日	平成23年6月27日	評価結果市町村受理日	平成23年7月25日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503312&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR白石駅北口から徒歩3分、バスも複数路線通っており交通の便が良い 整形外科に併設しており医療支援体制が充実でリハビリも受ける事ができる 施設内は広く開放的でユニット間の往来も自由に行える 音楽療法等月に3～4回行われ、それ以外も音楽が流れている事が多い 防火設備も完備している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR白石駅から徒歩5分と交通の便が良い場所にあり、近くに生協、商店街、銀行、公園などもあって生活に便利なグループホームである。建物は5階建てで、1、2階の同一法人の経営する医院、3階がグループホームとなっている。2ユニットが1フロアにあるため、ユニットごとの行き来がしやすくなっている。スプリンクラーやバリアフリーのトイレやお風呂など設備が整い、3階の中庭や2階の屋上庭園も利用することができる。室内は明るく、絵画や季節の装飾が飾られ、活動意欲を引き出す遊び道具も揃っている。個々の職員は親しみやすく、利用者の家族が気軽に来訪してくれている。職員同士の人間関係やチームワークが良く、利用者が安心して生活を送ることができる。また同一建物のため、院長が毎日のように巡回して利用者を診てくれるなど医療支援体制が充実しており、利用者や家族の安心に繋がっている。また音楽療法や訪問リハビリにも力を入れている。サービス評価項目についても、地域との交流や運営推進会議の活用などの面でサービスの向上に取り組んでいる。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 家族の2/3くらいと	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. 家族の1/3くらいと	
			4. ほとんど掴んでいない					4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように	
			2. 数日に1回程度ある					2. 数日に1回程度	
			3. たまにある					3. たまに	
			4. ほとんどない					4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 少しずつ増えている	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. あまり増えていない	
			4. ほとんどいない					4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 職員の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. 職員の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が	
			2. 利用者の2/3くらいが					2. 家族等の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが					3. 家族等の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成した理念を事務所に掲げ毎日確認するように実践につなげている	職員が作成した6項目からなる理念の中に「地域住民との関わりを大切に」という文言を入れ、地域密着を意識した理念として確立しているが、職員が理念を共有し実践に繋げるという面では十分とはいえない。	定期的に職員が理念を確認し共有できる機会を設け、実践に繋がられるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加するのには困難な状況のためレクリエーション時にボランティアグループ・町内会役員・保護課担当者を招いている	町内会に参加し、ホームのクリスマス会などに町内会役員の方に参加してもらっている。中学生の体験学習や楽器・フラダンスなどのボランティアの来訪も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で役員・家族に認知症についての話をすると勉強になると言われる。見学者にも支援の方法を伝える事が多く有る		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では御家族・町内会役員から活発な意見・質問が出る為サービス向上に活かされている	運営推進会議は2ヶ月に1度のペースで開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、町内会婦人部長、家族などの参加を得て、防災や外部評価、地域交流、研修生受け入れなどのテーマで活発に意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を盛んに取り協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加する他、ホーム長が区の管理者会議の副会長として活発に情報交換を行っている。役所の方がホームの音楽療法の見学に来ることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示した身体拘束マニュアルを整備し、共有している。玄関は夜間のみ施錠しており、1階までのエレベーターも自由に利用できるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加し学び施設で勉強会を行い虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち情報を提供している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族等の不安疑問点を尋ね十分な説明を行い理解納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の機会がとて多く意見要望を得られ運営推進委員会で外部へも表せ運営に反映させている	頻繁に来訪する家族が多く、面会時や運営推進会議で家族の意見を聞き、運営に反映している。家族アンケートを実施したり、電話や手紙で情報を提供し、活発な意見を引き出している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り・ミーティング等で職員の意見提案を聞く機会を設け反映させている	申し送りやミーティングの際に活発に意見交換しており、連絡ノートによる情報交換も行っている。職員同士は意見の言いやすい関係にある。一方、委員会や係などを各職員が分担して行うような取り組みは少ない。	事業所の運営について、例えば、行事や地域交流、衛生対策など、職員が役割を分担して運営に参加するような取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を把握し向上心を持って働けるよう整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が増加し職場内でも事例シート等を用いてトレーニングしていく事を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議研修会等で交流ができネットワークづくりができ質の向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と可能な限り会話をし傾聴関係づくりに努めている		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	開始段階で家族の悩み・要望等を傾聴その後もこまめに連絡を取り関係づくりに努めている		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め対応に努めている		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションをとり良い関係を築く努力をしている		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしながら共に支援していく関係を築いている		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう家族と共に支援に努めている	利用者の知人や友人の来訪を歓迎しており、手紙の返事のためにハガキや切手を一緒に買いに行くなどの支援をしている。利用者の馴染みの美容室に同行することもある。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、孤立しないように介入し支え合えるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話連絡を入れている		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向の把握に努めている	言葉での思いや意向の把握が難しい方も表情や仕草などから把握している。一方、利用者のアセスメントシートを作成しているが、生活歴や利用開始後の情報の蓄積は十分とはいえない。	個々の利用者について本人や家族から情報を得てアセスメントシートに蓄積し、職員が共有できるような取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会が頻回に有り意見の交換がしやすい為反映し介護計画を作成している	ケアマネジャーや管理者が中心となり定期的に介護計画を見直し作成しているが、見直し時の検討過程や話し合いの記録は十分とは言えず、日々の介護記録についても計画を意識した記録とはなっていない。	計画見直しの際の検討過程や話し合いの内容、どのように次の計画に反映されたかがわかるような書類の整備を期待したい。日々の記録についてもより計画が意識できる記録を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを把握し安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にしかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	建物の1、2階が同一法人の病院であり、院長が毎日のように巡回し利用者の健康状態をチェックしている。利用者個別のかかりつけ医への通院支援も介護タクシーを利用して行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と相談をし適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院関係者と情報交換に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について医師も交えて話し合いをし方針を共有している	重度化や終末期についてはホームでできる限り支援する方針とし、提携する医師より本人や家族に十分な説明をした上で同意書に署名捺印をもらっている。	提携する医師と本人や家族の話し合いの内容について、事業所としても内容を記録しておくのが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変者の経験が多く実践力が身につけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に実施している為身につけている。病院の三階にある為地域の協力は難しい	年に2～3回、消防署や病院と協力し昼夜を想定した避難訓練を実施している。災害時の備品の準備も整っている。一方、職員の救急救命訓練の受講は十分とはいえない。	全職員が2～3年に1度、救急救命訓練の受講ができるよう取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する言葉かけや対応を心がけている	職員の声のトーンなどで気になった場合は、その都度、ホーム長が注意している。個人記録類は事務室に保管し、記録する際は他者から離れた場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表したり自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に出来る限り希望にそえるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性には化粧をする機会をもうけ家族の協力を得て本人の望む美容室へ行けるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に片付けテーブル拭きをしている。メニューは職員がそれぞれ工夫アレンジしている	食材会社の献立であるが、行事の時などはちらし寿司や赤飯の主食にしたり、日々の中では副食を利用者に合う献立に変更して提供している。テーブル拭きなどの後片付けを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣に応じコーヒー・ジュースなどの嗜好品も使用し水分を確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じた口腔ケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しオムツ使用者も時間でトイレ誘導を行う工夫をし支援している	個別の排泄記録をもとに時間誘導や一人ひとりの仕草を見てトイレでの排泄を支援している。夜はオムツを使用しているケースでも、日中は排泄用品を軽減して自立排泄を進めている。排泄の声かけはできるだけ他者に気付かれないように留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけや寝たきりの方には腹部マッサージに取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方に対しての言葉かけの工夫や利用者によっては家族の協力のもと支援をしている	入浴は水曜日以外の午後に設定し、一人ひとりがゆっくりと入浴できるよう時間配分されている。シャワーチェアなど個々に応じた補助具を使用したり、利用者の好みの温度で入れるよう調整している。拒否がある場合などでは家族の協力を得ているケースもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて安眠や休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬について把握し服用の支援・病状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように家事・レクリエーション・気分転換等の支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望で家族の協力のもと遠方外出されている	建物の2階にある屋上庭園へ外気浴を兼ねて出かけたり、日々の買い物で職員と一緒に外出している。リハビリ治療のため、建物内の医療機関に出かけ他の外来患者と会話を楽しむ利用者もいたり、家族の協力を得て外出しているケースがあるが、全体的に外出の頻度は少ない傾向である。	家族や法人のバックアップを得ながら、近隣への散歩や季節感を味わう外出行事など、戸外で楽しめるよう検討を期待したい。
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方は所持されている		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持の方もおられる。ハガキも頻回書かれお預かりしている		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は居心地よく過ごせるよう生活感季節感を採り入れている。不快にならない程度の音楽も流すなど工夫をしている	居間は広く畳の小上がりがある造りで、ソファークーナーも全員が寛げるスペースを確保している。季節の風物詩をモチーフにしたオブジェを装飾して四季を感じられるようにし、絵画も飾られている。トイレ・洗面台は車椅子対応型で設備され、身体機能に配慮されている。両ユニットが回廊型で繋がっており、利用者が自由に出入りできるようになっている。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるよう和室の空間も使い工夫している		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものと入居時に伝え居心地よく過ごせるよう工夫をしている	各居室にエア換気システムが備え付けられ、空調への配慮や居室ドア上部にステンドグラスを用いて、温かみを出している。馴染みの生活用品が持ち込まれていたり、愛着のある品々があるなど、安心して過ごせるよう支援している。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下などに手すりを設置し見守りも徹底し自立した生活が送れるよう工夫している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい12		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6番12号		
自己評価作成日	平成23年6月27日	評価結果市町村受理日	平成23年7月25日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503312&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「Aユニット」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所やユニット内に掲示しており毎日出勤時に確認して実践につなげている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加できる利用者は少人数だが参加できるように試みている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽療法や行事の体験をしてもらうように試みている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を試みて報告や話し合いをしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	頻繁に区役所に訪問して相談や助言を得たり協力関係を築けるように取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように取り組んでいる。転倒の多くなった利用者は見守りを強化している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加し学ぶ機会を持ち職員間で防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち必要に応じ家族に情報提供している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族等に十分な説明を行い理解・納得を得られるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見・要望を得られるように関係作りに努めている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや連絡ノートを活用し必要に応じて随時話し合いをしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や提案を聞き反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修を受ける機会も増えており日々トレーニングになる事も多い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者と交流する機会を作りサービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごせるように本人の要望に耳を傾け笑顔で接し関係づくりに努めている		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望に耳を傾け密に連絡を取り関係づくりに努めている		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としている支援を見極め対応に努めている		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として楽しい事苦しい事等共有していきたい		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にして共に本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように支援に努めている		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の見直しを行う等孤立せず関わり合い支え合えるような支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訪問、電話等でその後の経過を確認している		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望意向の把握に努め困難な時は家族や本人と相談するように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等よりこれまでの生活歴等伺い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり毎日ノートに記録し現状の把握に努め情報交換している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員の話聞き介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療支援・通所リハビリ・音楽療法・理美容・行事等サービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・警察・消防署・小中学生との交流など協力を得ている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	建物の一階が病院で支援している。個別にかかりつけ医の通院支援をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一階の病院の看護師と訪問看護師と情報を共有し相談しながら適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と共に医師から病状説明を受けたり病院関係者との連携を取り関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人や家族、医師と相談しチームとして取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変する利用者も多くその都度医師と連携を取り対応している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間昼間を想定した避難訓練を定期的に行なっている		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者の思いや希望を伺い自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしてその日の体調を伺い出来る限り希望にそえるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・更衣等利用者の希望にそえるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に食事を楽しみ下膳や茶碗拭き等出来る方で行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた支援をしている。お粥、キザミ食、茶ゼリー、とろみ食、ココアなど提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じた口腔ケアをしている。残留物がないように注意している。自力でケアできる方は毎食後行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。オムツ使用者も時間でトイレ誘導行っている。排泄の失敗時の対応に注意している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ、薬で調節も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調を確認しほぼ介助による入浴の方が多い。車椅子の方は二人で入浴介助している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて休息や安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬剤情報提供者にて理解し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌唱・体操・カルタ等グループワーク、できる範囲でのお手伝い、外気浴、嗜好品などで楽しみ気分転換の支援をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は近所に散歩にでかけたり二階中庭で外気を楽しんでいる。家族の協力を得て地域行事の参加をしたい		
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でやっているのでも小銭程度自己管理できる方のみ所持されている		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方は自ら電話をしたり手紙を書かれている。本人の希望により職員が電話のとりつぎをしている		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は居心地良く過ごせるように明るさ気温等に配慮し生活感や季節感を採り入れている		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳に座り談話されたりテレビを独りで見たり思い思いに過ごされている		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら居心地よく過ごせるように使いなれた物や家族の写真等持ち込まれている		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレなどに手すりがあり自分の部屋やトイレの場所がわかるように工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 生きがい2

作成日：平成 23年 7月 22日

市町村受理日：平成 23年 7月 25日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	日々の介護記録が計画を意識した記録になってない	介護記録を計画を意識した物にする	ケアプランを介護記録に添付したチェックリスト用紙を作成し毎日チェックするようにする	1ヶ月
2	1	職員が理念を共有し実践につなげるという面で十分でない	職員全員が理念を確認し実践につなげる	出勤時に必ず理念を確認する カンファレンスで全員で確認し共有する	3ヶ月
3	11	委員会や係など各職員が分担して行う取り組みが少ない	職員が役割を分担して運営に参加する	係を増やし職員が役割を分担して運営に参加する	3ヶ月
4	33	提携する医師と家族・管理者との話し合いの内容の記録が一定していない	専用の記録を作成する	今まで各人ごとに記録の残す方法がバラバラであった物を専用の書式を作成し記録に残す	1ヶ月
5	49	外出の頻度が少ない	外出の頻度を増やし行事も行う	天候を考慮し庭園だけではなく戸外へ行く 年に一度は外出行事を計画実行へとするようケアマネジャーを中心に行う	6ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。